

二学年だより

No. 16

令和4年3月2日
太宰府市立学業院中学校
文責：江崎 彰泰

クラスマッチ、卒業式、そして最上級生

～「感謝の心」と「役に立とうとする心」を大切に～

2年生最後のテスト、期末考査が終わりました。新型コロナウイルスの影響で、当日欠席せざるを得なかった人やテスト前の授業を受けられなかった人は、本当に大変だったと思います。

今回のテストでは、「2年生になって一番必死に勉強した」という声がよく聞こえてきました。勉強した成果が出せた人は、この努力を3年生でも続けていきましょう。思うような結果が出せなかった人は、自分の中に課題を見つけましょう。授業の受け方や家庭学習など、日常の勉強の中にきっと改善すべきところがあるはずですよ。

後日返される「学習のあゆみ」の結果をもとに、今までの自分の勉強を振り返りましょう。そして、これからの自分の勉強方法を考えてください。

さて、8日(火)にはクラスマッチが予定されています。2年生最後の学年行事です。それぞれのクラスで励まし合い、カバーし合いながら協力して、大いに楽しみましょう。

また、11日(金)は第75回卒業証書授与式(卒業式)が行われます。

残念ながら、感染予防対策により2年生全員が式に参加することはできませんが、前日に式場作成と掃除を全員で行います。

そこで、皆さんに大切にしてほしいことがあります。

それは、3年生の卒業式の「役に立とう」という気持ちで、「感謝の心」を込めて前日の作業をすることです。

部活動、体育会、生徒会活動、日常生活など様々な場面でみなさんは3年生にお世話になりました。いろいろなことを教わり、支えられ、導いてもらいました。目標とする先輩や憧れの先輩がいる人は、直接お世話になったことを思い出せるでしょう。先輩との関わりがほとんどなかったという人も、知らない(気づいていない)ところで間違いなく3年生に助けられたり、お世話になったりしています。

3年生に気持ちよく卒業式を味わってもらおう、たっぷり感動してもらおう、さわやかな笑顔で卒業してもらおう。そのための力になってほしいのです。

今回は、式に参加して歌声や姿、表情で直接「感謝」の気持ちを伝えることができません。だからこそ、卒業式前日の式場作成では、隅々まで掃除し、整然とした美しい式場を作りましょう。「感謝の心」と「役に立とうとする心」を行動や姿にあらわしてください。



「感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく。」

松下 幸之助 (松下電器産業創業者)

「不満はね、ストレスの素よ。感謝はエネルギーになるのよね」

森 光子 (女優)

「感謝する心」は、人間社会のなかで心穏やかに生きる最高の発明品」

斎藤 茂太 (精神科医・随筆家)

高校入試に向けて

自主学習講座による勉強が始まりました。国語の1コース(4枚+学力判定問題)が終わりましたが、やり方やリズムはつかめましたか。

ここで、何のためにこの教材を使うのか、もう一度確認しておきます。

- **基礎を固める。**
 - ・忘れていたことを思い出す ・覚えなないといけないことを覚える
 - ・わからない問題をわかるようにする
 - ・できない問題をできるようにする
- **自学(自分で調べて、自分で考える)の力をつける。**
 - ・問題シート ⇒ 解説シート ⇒ 問題シート
 - ・自学ノートの内容につなげる
(大事なポイントをまとめる、間違えた問題のやり直し、書いて覚えるなど)

来年の進学(高校入試)に向けて、2年生全員での本格的な準備の始まりです。この教材を使って、1年生の4月からの勉強内容を総復習していきます。

「毎日、朝学習と家庭学習でていねいに問題に取り組む」「毎朝、必ず提出する」「毎日、家できちんとファイルにとじる」…。学年みんなでこの流れを作り、学年みんなでこの流れに乗って基礎学力を固めていきましょう。

毎年秋になると、越冬のためヒマラヤの8000Mもの山を越える鶴がいることを知っていますか。チベットからインドにかけて命がけて渡るその鶴の名は「アネハヅル」。カで飛ぶわけではありません。風に乗って飛ぶのです。



世界最高峰の山「エベレスト」のあるヒマラヤ山脈は、8000メートル級の山々が連なっている。人間が登山する場合は、酸素マスクをつけなければ登ることが出来ないし、突然エベレストの山頂に何の準備もなく飛行機から下ろされたとしたら、たちまち死んでしまうと言われている。

数十羽のアネハヅルがきれいなV字型の編隊を組みながら飛んでいく。いくつものV字型の集団が幾重にも後から後から続いていく。その数、約5万羽…。V字型に編隊を組むのは、前方の鳥のおかげで空気抵抗が少なく、後続の鳥の体力を温存できるからだ。しかし、先頭や前を飛ぶ鳥の負担が大きいので、適当な距離を飛ぶと順次、後ろのツルが先頭部に交代する。先頭になる鳥は自然と決まるそうだ。弱いものは守られ、強いものは率いて・・・

アネハヅルは自分の力ではヒマラヤ山脈の高さを飛ぶことは出来ない。上昇気流に乗って、山を越える。ヒマラヤ山脈の4000M付近に差し掛かると、一気に上昇気流に乗って8000Mへ…。常に羽を動かしているわけではなく、気流を利用して羽を動かさず滑空状態と、羽を動かして飛んでいる状態とを交互に繰り返しながら。

アネハヅルは私たちに、「どんな壁があっても、みんなで協力して、あきらめずに越えようとチャレンジすれば、自分の力ではない何か特別な力によって壁を越えることが出来る」そのことを教えてくれていると思うのですが、みなさんはどう思いますか。

保護者のみなさまへ

度重なる学級閉鎖により、ご心配とご迷惑をおかけしました。また、急な対応にご協力いただきありがとうございます。引き続き感染予防対策をよろしくお願ひします。

今年度も残りわずかとなりました。学校では、学習面と生活面での見直しを図り、1年間の締めくくり、および3年生になる準備を行っていきます。

ご家庭でもお子さまへの叱咤激励をお願いします。